

## 「アカ」歌詠む父も連行された

会社員

(宮崎県 64)

新聞で「共謀罪」法案の記事を  
読み、父の戦前の体験談を思い出  
した。父は1906年、四国の高  
峰、剣山のふもとの徳島県木屋平  
村(現美馬市)で生まれた。若い  
頃に母親を亡くし、山の奥で木こ  
りをして、父親と二人で暮らして  
いた。文芸好きで、山仕事の合間  
に短歌を詠み、新聞の歌壇や同人  
誌に投稿していたそうだ。

ある日、数人の警察官が突然、  
自宅におしかけた。父は車に乗せ  
られ警察署に連行された。共産党  
員と疑われたのである。蔵書の石  
川啄木や斎藤茂吉らの歌集が赤色

で装丁されていて、それを見た近  
隣の誰かの話が伝わったらしい。

取り調べの警察官は、押収した  
本を示して「お前はアカだろう」  
と追及。父が「これは歌集。共産  
党とは無関係だ」と説明しても、  
尋問が続き、調書に署名押印して  
やっと釈放されたという。

父が詠んだ歌が残っている。

父ひとりいますさみしさ青麦のあ  
かるき里を走る護送車は

聴取書に署名押印を終わったり窓  
近き木に朝が晴れてをり

人を恨まずおのれを愧じずこん  
んと湧く真清水と生きてゆくべし

父が生きていたら、今の時勢を  
どのように思うのだろうか。